水道施設の耐震化状況（令和５年度末時点）

本市水道事業では、平成 12 年度から地震等の災害時においても安定した給水体制の確保を目的に、水道施設の耐震化に取り組んでいます。

令和５年度末時点における各施設の耐震化状況は以下のとおりです。

①浄水施設（5 箇所）の耐震化状況

全施設能力（㎥/日）	耐震化施設能力（㎥/日）	耐震化率（％）
133,618	133,618	100.0%

※ 本市の自己水源は良質な地下水を汲み上げて使用しており、沈殿・ろ過といった浄水処理を行わなくても水質基準を満たすことができるため、浄水施設は消毒のみの施設として接合井を対象としています。

②配水池（15 箇所）の耐震化状況

全有効容量（㎥）	耐震化有効容量（㎥）	耐震化率（％）
112,335	112,335	100.0%

③基幹管路の耐震化状況

総延長（m）	耐震適合性のある管延長（m）	耐震管延長（m）	耐震適合率（％）	耐震化率（％）
238,597	128,641	63,770	53.9	26.7

※ 基幹管路とは、水道施設にとって重要な管路であり、導水管・送水管・配水本管をいいます。本市では、口径 300 ㎜以上の配水管を配水本管としています。

※ 耐震適合性のある管とは、地震による地盤変動がおきた場合でも、地盤によって管路の破損や継手の離脱等の被害が軽微な管をいいます。